

- 1 日時 令和5年12月19日(火) 【第1部】10:00~12:00
【第2部】14:00~16:00
- 2 会場 奈良県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域学校協働活動推進員等 計73名
- 4 内容 10:00~10:05/14:00~14:05 開会
10:05~11:55/14:05~15:55 情報交換・グループワーク
「効果的なボランティア募集カードの作成について」
11:55~12:00/15:55~16:00 閉会

5 情報交換・グループワークの内容

【テーマ：効果的なボランティア募集カードの作成について】

1. ボランティア募集カードを作成する際の検討事項に関する協議
2. 1における協議内容の共有
3. 1と2における協議内容を踏まえた「効果的なボランティア募集カードの作成」



<協議内容>

- ・活動項目を細分化して記載することで、ボランティアを集めやすくなると考えられる。
- ・募集カードに記入して回答してもらう以外にも、LINEの公式アカウントを作成し、募集情報を発信することで、ボランティアを募集しやすくなることも考えられる。
- ・募集カードに掲載する項目は、学校と地域の意見をすり合わせ、学校と地域の実態やニーズに合ったものにすることが大切である。
- ・回答する項目を少なくすると、視覚的にボランティアの方が回答しやすくなることが考えられる。
- ・募集カードに活動してもらいたい項目を細かく設定するとともに、活動可能曜日の記入欄を設けることで、地域学校協働活動推進員等が人の配置や時間の調整を行いやすくと考えられる。また、ボランティアの方が、空いている曜日に自分に合った活動に参加することができるとも考えられる。
- ・募集カードを効果的に使うために、「どこから、どこ経由で、誰に配布するのか」「集計されたデータを誰が管理するのか」「募集カードの更新頻度をどれ位に設定するのか」等を考えておくことが大切である。
- ・募集カードの中にQRコード(読み取ることでカードと同じ内容をスマートフォン等で回答できる)を掲載することで、回答率を上げることができるのではないかと。

6 参加者の主な感想

- ・それぞれの地域、学校ボランティアの様子が良く分かった。自分たちの地域で、どのように活動していけば良いのか考えていこうと思う。
- ・学校が求めている事とボランティアの思いとに「ずれ」が生じた場合には、地域学校協働活動推進員等として調整することが大切だと思った。
- ・それぞれの地域の特性を考慮しながら、様々な活動を実施されていることが分かって大変勉強になった。
- ・他地域の様子を聞き、より効果的なカードを作っていきたいと思った。

